



にしやま ゆみ こ
西山由美子 議員

鶏は飛べないけれど、
未来に向かって羽ばたけ
訓高生

地域と共にある学校

問 道立訓子府高校は子どもたちの進路の先があり、町にとっても地域にとっても大切な存在であると思う。

答 今年度は学校改革の第一歩を踏み出して、訓高の三つ目の支援組織「魅力化プロジェクト委員会」が3月に設置され、魅力ある学校づくりに向けて動いているが、訓高生と町民や子どもたちとの交流の取り組みは。

答 訓子府高校はコミユニティ・スクールの一環として「ふるさと教育くんねつぷ学」を推進しスマート農業や

訓中生との共同で農園学習を行っている。また町内企業や役場などでの職場体験学習、地域学習や町のPR活動、町議会傍聴学習、こども園での園児との交流、若がえり学級生との交流など、幅広く町民と交流を行っている。

部活動では町内イベントでの、吹奏楽部の演奏や訓小スクールバンドや訓中吹奏楽部、オニオン吹奏楽団との合同演奏。子ども祭りの運営支援や居武士小の学習支援を行うボランティア部。スクールバス停留所のバス停アートへの支援や訓高生募集ポスターを作成する美術部など、地域に根ざした多くの活動に取り組んでいる。

訓高生は世代間交流の要としての存在価値を発揮して、地域を担う人材としてまちづくりの一役を担っている。

情報発信の充実

問 訓高の魅力を町内外に発信する方策は。

答 何より情報の発信が重要で、入学者募集の生徒や保護者向けチラシ・ポスター・パンフレットの配布をしている。今年度はポスターを武蔵野美大の協力を得て、美術部の生徒が自らの体験をもとにインパクトのあるものを作成し、通学圏域の中学3年生に配布予定で

ある。またホームページや広報紙、まなべル、報道機関への取材要請など学校とも連携しながら発信している。

さらに夏と秋、高校と教育委員会が一緒に近隣中学校を訪問し積極的なPRをしている。今後も関係機関・団体と協力しあって訓高の特色や魅力の情報発信に努めたい。

問 「魅力化プロジェクト委員会」の今後の取り組みと町の対応は。

答 これまでの意見交換や協議してきた三つの視点による高校魅力化支援のための具現化の検討を行いたい。この「魅力化プロジェクト委員会」は訓高の応援団として、より魅力的で持続可能な学校とするため地域の特色や連携を生かした事業の検討を行い、さらなる振興に取り組みたい。



こちらから西山議員の一般質問を視聴できます